

パリ協定6条に関する各方面の反応

気候変動とエネルギー領域
副ディレクター

高橋健太郎

本日の流れ

- 1 パリ協定 第6条と炭素市場との関係
- 2 自主的炭素市場の関係者の反応
- 3 環境保護団体の反応
- 4 研究機関（Öko-Institut e.V.）の見解と新たな動き
- 5 今後の炭素市場の展望

パリ協定 第6条と炭素市場との関係

遵守（コンプライアンス）市場


カーボンプライシング

排出量取引制度（ETS）
炭素税

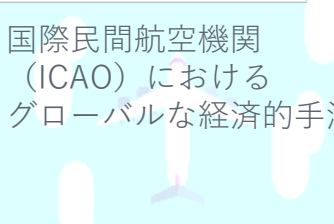
EU-ETS 排出枠価格
(2021年12月15日時点)
80ユーロ/tCO₂

略称：ETS (Emission Trading System)

国際海事機関（IMO）
における
グローバルな経済的手法



国際民間航空機関
（ICAO）における
グローバルな経済的手法



**NDC目標達成
に活用**

略称：NDC (Nationally Determined Contribution)
自国が決定する貢献

パリ協定第6条

第6条2項

第6条4項
(CDM後継版)

略称：CDM (Clean Development Mechanism)
クリーン開発メカニズム




自主的炭素市場

自主的炭素市場
取引量は増加傾向

1.04億トン
(2019年)

2.39億トン
(2021年8月末時点)

出典：Ecosystem Marketplace, State of the Voluntary Carbon Markets 2021 installment1



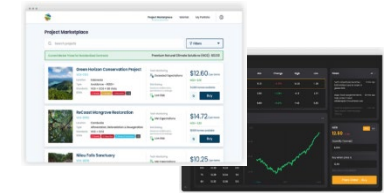
TASKFORCE ON SCALING
VOLUNTARY CARBON
MARKETS

VCMI Voluntary Carbon
Markets Integrity
Initiative

自主的炭素市場の拡大に
関するタスクフォース

自主的炭素市場十全性
イニシアティブ

評価枠組みやガイダンスの提供



Climate Impact X

(高品質なクレジットを取引するプラットフォーム)

Carbon Credit Quality Initiative (CCQI)

(クレジットを評価する新たなイニシアティブ)

お互い気になる？
(特に相当調整)

クレジット供給

懸念の声



企業等による
カーボンニュートラル
達成

SBTi等

クレジット供給

クレジット供給

クレジット供給

クレジット供給

クレジット供給

自主的炭素市場の関係者の反応

企業が使用する自主的クレジットの相当調整の適用可否に関する見解が多い。

VCMI 自主的炭素市場との関連について、今後、詳細を決定。

- ・相当調整の適用可否、先住民族、地域コミュニティ等の包括的な参加、2020年以前のクレジットの使用
- ・クレジットのバイヤーのためのガイダンスを作成予定

※VCMI (Voluntary Carbon Markets Integrity Initiative)
出典：<https://vcmintegrity.org/3056-2/>

IETA 二重計上を防止し、環境十全性の確保を支持。

- ・2020年以前のユニットの限定的な繰越しによって、新しいメカニズムが稼働するまで、開発途上国への資金の流れを維持。

※IETA (International Emission Trading Association)
出典：<https://www.ieta.org/page-19169/12124997>

TSVCM 現時点で6条の結果に対して意見の表明なし。

- ・新たなガバナンス組織であるIntegrity Council for Voluntary Carbon Markets (IC-VCM)がコアカーボン原則 (Core Carbon Principle) を検討。

※TSVCM (Taskforce on Scaling Voluntary Carbon Markets)
出典：https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_NewGovernanceBody.pdf

Gold Standard 国際移転するクレジットは相当調整を適用

- ・VCMI、IC-VCM、CCQIとの連携が必要
- ・BMW等、相当調整したクレジットの需要有
- ・方法論の見直しを実施

※CCQI (Carbon Credit Quality Initiative)
出典：<https://www.goldstandard.org/blog-item/post-cop26-%E2%80%93-reflections-article-6-outcomes>

VERRA 第6条のルール(相当調整)は、自主的炭素市場に対して義務ではない。

出典：<https://verra.org/moving-forward-together-verras-reflections-on-the-cop26-outcome-in-glasgow/>

ICROA 未承認のクレジットの使用・請求に関するさらなるガイダンスが必要。

- ・VCMIやIC-VCMと協力予定。相当調整によりCORSIAクレジットは一時的に供給不足の可能性。

※ICROA (International Carbon Reduction and Offset Alliance)
出典：<https://www.icroa.org/post/article-6-of-the-paris-agreement-and-its-implications-for-the-voluntary-carbon-market-vc>

COP26期間中の環境保護団体の反応

会場内で聞いた言葉

Junk Credit

Bang, Bang, Bang of Greenwashing

Zombie Credit

Your Task Force is SCAM (詐欺)

No Carbon Market

Back to the Future



グretaさん他、SNSでグリーンウォッシングへの懸念やオフセットは排出のフリーパスであるとツイート

出典：グretaさんツイート
<https://twitter.com/GretaThunberg/status/1455904676227002375>

COP26参加者に関する記事
 (化石燃料業界の参加企業を特定)

出典：Global Witness
<https://www.globalwitness.org/en/press-releases/hundreds-fossil-fuel-lobbyists-flooding-cop26-climate-talks/>



Global youth "final hours" recommendations on Article 6 at COP 26

We need effective, inclusive and ambitious carbon trading rules out of COP26. This means:

- The Japan proposal needs to be transitional with timeframes and mandatory cancellation on private sector credits to incentivise the use of authorised credits
- No Zombie Credits: From a transition of CERs or use of CDM methodologies
- Real Emissions Reductions: via automatic mandatory cancellation throughout Art 6
- Human Rights and Indigenous Rights: stronger language in the operative parts of Art 6
- No Double Counting: corresponding adjustments for all transfers, including inside/outside scope in addition to other international mitigation purposes
- Independent Grievance Mechanism process under Art 6.4
- Rejection of policies and measures as a creditable activity
- Transparency of carbon trading mechanisms meetings and documents publicly available
- Robust methodology Option A on baselines and no non-GHG metrics

This requires urgent changes to the following texts:

Art 6.2

- Annex, para 20d) DELETE this bracket. The first transfer of a mitigation outcome authorized by a participating Party for use for other international mitigation purposes.
- Annex, para 1.3) DELETE this paragraph
- Annex, para 1.4f) UNBRACKET
- Annex, para 11 and 17) DELETE and DELETE references to policies and measures in 13 and 14.
- Annex, para 20m) CHANGE 'and' to 'or'
- Annex, para 36 and 38- DELETE 'take into account' bracket
- Annex, para 17f) and 21b) UNBRACKET

Art 6.4

- Annex, para 31e) ADD language on ensuring FPIC of indigenous peoples
- Annex, para 45- SELECT Option B)add
- Annex, para 56- SELECT Option A
- Annex, para 60- Select 30% as cancellation option
- Annex, para 63- CHANGE Supervisory body to an independent grievance mechanism
- Annex, para 70- SELECT Option B to result in real emissions reductions
- Annex, para 74- SELECT Option A or at very least strike the end of Option B to avoid NDC use.

Art 6.8

- Annex, para 1- ADD language on rights of indigenous peoples and human rights
- Annex, para 21a) ADD indigenous peoples and local communities to stakeholder engagement list
- Annex, para 92b) ADD indigenous peoples and local communities to stakeholder engagement list

Youthによる6条への意見
 (会場内で配布)

- ▶ 石炭・化石燃料への風向きが厳しくなり、クレジットへも波及。
- ▶ クレジットを大量に活用する業界にも厳しい視線。
- ▶ クレジットの活用が1.5°Cにどのように貢献するか説明要。



COP26後の環境保護団体の反応

Carbon Market Watch

- ✓ 二重計算を回避するために、クレジットを承認し (authorized)、相当調整を適用することが必要。
- ✓ 民間企業が購入した自主的クレジットは、6条の管理下にはならないが、二重計上を許可することになりうる。
- ✓ 6条4項では、未承認のクレジットを発行する可能性がある。仮に、そのようなクレジットが発行された場合、民間企業が未承認のクレジットをオフセットすることはグリーンウォッシングに相当。
- ✓ それらのクレジットは開発途上国の緩和を支援するために気候資金を提供する手段として機能することが可能。
- ✓ 回避された森林破壊および森林劣化プロジェクトからのクレジット (REDD+クレジット) は、6条の対象にはならない。

出典：FAQ パリ協定第6条の解説

<https://carbonmarketwatch.org/2021/12/10/faq-deciphering-article-6-of-the-paris-agreement/>

COP評価

6条2項

プラス

- 承認されたクレジットに相当調整を適用
- 承認されたクレジットには有効期限有 (NDC 期間で使用するため)

マイナス

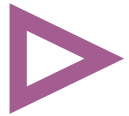
- 永続的に貢献しない自然に基づく排出除去
- 政策措置の定量化
- 世界全体削減 (OMGE) のための自主的取消
- 適応への自主的な貢献

6条4項

- 承認されたクレジットに相当調整を適用
- ベースラインと追加性を強化
- 適応への貢献 (義務)

- 永続的に貢献しない自然に基づく排出除去
- CDM移管 (すべての移管で最大28億トン)
- 先住民や地域コミュニティへの配慮

研究機関（Öko-Institut e.V.（Lambert氏））の見解



相当調整を適用しないクレジットに関して、政府等が企業による主張に対して、規制の検討を開始する可能性有。

6条2項

売手国は全てのユニットをアカウントティングすることが必要。

- 承認する（Authorized）ことを義務づけている。
- 承認されたクレジットは相当調整の適用が必要。
- アカウントティングルールとして、炭素クレジットの次期NDC期間への繰越を禁止。
- 相当調整の平均法について、特にCORSlAにおける適用に対して懸念。
- 世界全体削減（OMGE）と適応への貢献が不十分（強く奨励されているのみ）。

6条4項

- ある場所の排出量を別の場所でオフセットすることが目的ではない（京都メカニズムとは異なる）。
- ベースラインと追加性を強化。
- 適応へ貢献（義務）。
- 既に稼働しているCDMプロジェクトから発行されるクレジットを購入するとレピュテーションリスクが生じる可能性がある。
- CDMプロジェクトは自動的に移行されない（6条4項の決定に従う）。
- 6条4項の厳格なメカニズムを考慮すると、移管の対象となるプロジェクトや発行可能なクレジット量は不明。

新たな動き

カーボンのクレジット品質イニシアチブ (THE CARBON CREDIT QUALITY INITIATIVE)



3つのプロジェクトタイプ（埋立地ガスの利用、植林と再植林、効率的な調理用ストーブ）と4つのクレジットプログラム（CDM、VCS、ゴールドスタンダード、CAR）を評価するツールの作成を検討


追加性・二重計上の回避・非持続性への対応・環境及び社会への影響などを評価基準の項目として検討。

自主的炭素市場拡大タスクフォース（TSVCM）の理事及び専門家パネルの共同議長である下記の3名が関与

- Kelley Kizzier, Vice President, Global Climate, Environmental Defense Fund（TSVCM理事）
- Pedro Barata, Senior Director at Environmental Defense Fund and Partner at Get2c（TSVCM専門家パネル共同議長）
- Lambert Schneide, Research Coordinator for Internat. Climate Policy, Öko-Institut e.V（TSVCM専門家パネル共同議長）

今後の炭素市場の展望

今後はこんなニーズ？

- | | |
|--|--|
| 1 コンプライアンス（NDCやCORISIA）市場で使用されるクレジット（相当調整つき） | 主に二国間や6条4項クレジット |
| 2 自主的目的使用のためのクレジット（相当調整つき） | Gold Standard等のクレジット |
| 3 相当調整の対象にならないクレジット | 国際移転はせず、プロジェクト実施国で活用されるクレジット（例：国内ETS/炭素税等） |
| 4 資金貢献と削減量を主張するためのクレジット（投資企業はクレジットを獲得しない） | 森林保全への投資  |

国際移転するクレジットは、環境十全性の確保（二重計上の防止等）がより重要に。

- ▶ 承認（authorized）され、相当調整を適用（二重計上防止）するクレジット制度が優位に。
- ▶ 炭素市場の活性化に伴い、先住民族や人権への影響に対応することがさらに重要に。
- ▶ 世界全体の排出量が増えないよう、品質の高いクレジットに対する期待。一方で、制度がより厳格となる可能性。
- ▶ クレジットの需要国・供給国は、環境十全性を確保するために制度設計の検討が必要。



ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域 / 副ディレクター

高橋健太郎

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関